

令和2年度 第2回安来市総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和3年2月9日(火) 15時30分～16時30分
2. 会 場 安来庁舎 防災対策室
3. 出席者  
(構成員) 安来市長 田中武夫  
教育長 勝部慎哉  
教育委員 寺田 禎  
教育委員 加藤隆志  
教育委員 岡本亮啓  
教育委員 小村修司  
(事務局) 総務部長 大久佐明夫  
教育部長 青戸厚志  
教育部教育総務課長 原みゆき  
教育部学校教育課長 三保貴資  
総務部総務課長 金山尚志  
教育総務課主査 影山理子  
総務課総務行政係長 吉原秀和  
教育総務課総務係長 足立隆博  
学校教育課学事係長 青木尚美  
総務課統計情報係 加納雄大  
(司 会) 総務部総務課長 金山尚志
4. 欠席者 なし
5. 傍聴者 3名
6. 議 題 (1) 学校配置の適正化について  
(2) 安来市の教育について  
(3) その他

7. 内 容

○金山総務課長

失礼いたします。ご案内しておりました時刻になりましたので、ただいまから総合教育会議を開催いたします。議事に入るまでのところは、総務課の方で進行をさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。それでははじめに市長がごあいさつ申し上げます。

○田中市長

皆さんこんにちは。大変お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。令和2年度の第2回の安来市総合教育会議の開催にあたりまして、ご挨拶を申

申し上げます。教育委員の皆様方におかれましては、平素より本市教育行政の推進にご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、安来市総合教育会議は、地方教育行政法の平成26年改正に伴い、市長と教育委員が相互の連携を図りつつ、教育行政を推進するために、平成27年に設置されたものであります。これまで安来市教育大綱を策定したほか、部活動や学力向上、ふるさと教育、いじめ問題、ICT環境整備など様々な教育関係について意見を交わしてまいったところがございます。本日は、学校配置の適正化、そして安来市の教育について、この2つを議題としております。特に学校配置の適正化は、長年の懸案事項でありまして、教育方策の方向性を共有し、子供たちが将来への夢や希望を育み、生きていく力をしっかりと身につけることができる教育環境を構築しなければならないと考えております。委員の皆様から忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、ごあいさつとさせていただきます。

#### ○金山総務課長

それでは会議に入ります前に、本日の資料を確認させていただきます。お手元に配布しております。次第、2つ留めになっているものがございます。これは主に1の議題の学校配置の適正化で使う資料でございます。それからもう一部、参考資料と書いた左肩留めにした資料がございます。過去の会議の議題、それから、総合教育会議の設置要綱を綴じております。(2)の安来市の教育についての際にご参考にしていただければと思っ添付させていただいております。皆様ありますでしょうか。それでは、設置要綱により、市長を議長として、この会議の進行をお願いいたします。

### (1) 学校配置の適正化について

#### ○田中市長

そういたしますと、私の方で議長をさせていただきます。座って行わせていただきます。それでは、レジュメに従いまして進めたいと思います。まず、議題1の学校配置の適正化について。執行部の説明をお願いします。

#### ○原教育総務課長

失礼します。教育総務課の原でございます。小中学校の適正配置について、専門に検討する会を令和3年度に設置することとしておりますが、3年度に入ってスムーズなスタートが切れるように、今後のスケジュールについて定例の教育委員会で協議をして、教育委員会としての案をまとめましたので、説明をさせていただきます。まず、検討内容の一番左の列のところをご覧ください。他自治体の事例などを参考にしながら、一番上の小中学校適正配置基本方針の策定というところから始まりまして、順に、中ほどの基本計画の策定、そして将来的には実施計画の策定と、こういう流れで進めていくのが一般的ではないかというふうに考えております。基本方針の中身といたしましては、学校規模や適正配置に向けた基本的な考え方を示すもので、視点や理念、

目標、推進上の配慮事項等の記載を考えております。それから、基本計画に進みますと、より具体的な方向性が出てくると思っております。おそらくここで、具体的な例えばですけど、校区面など出てきた場合には、将来的には一番下の実施計画の策定ということになりまして、個別の学校ごとあるいは校区ごとの詳細を検討し、実施に移すということになると思っております。それから設置する会議ですが、一番上の基本方針の際には、安来市教育政策推進会議を活用してはどうかと考えております。

一枚めくっていただきますと、この推進会議の設置要綱をつけてございます。この推進会議についてはすでに要綱がありまして、必要に応じて会議を設置しますので、現在任命されている委員さんはおられません。所掌事項としては、教育政策に関する基本的な考え方及び重点的な教育活動に関すること、その他、教育委員会が必要と認めることについて調査し、検討するということになっております。要綱によると、ここは諮問機関ではありませんが、第3条第3項のところを見ていただきますと、検討の結果を教育委員会に報告または提言するまでと任期はそこまでとなっているところから、この会で提言書をまとめていただくことは可能だと考えております。第3条第1項に戻りまして、委員は10人以内で組織する。メンバーについては、児童生徒等の保護者、識見を有するものあるいは教育委員会が適当と認めるものとなっております。方針を決める際には教育政策、広く全般に協議していただく必要があると想定されることから、まずはここからの会議のスタートではいかがかと思うところです。

次に基本計画に移りましたが、仮称ではありますけどそこには、安来市小中学校の適正規模・適正配置検討会議という会議を条例によって、設置してはどうかと考えております。最初の政策推進会議よりももっと幅広に関係する委員さんを集めて発展した形で、そういう会議の設置はどうかと思うところでございます。それぞれ会議の横に庁内検討会議、安来市総合教育会議と四角で囲んで記載しておりますけど、その都度、それぞれの会議の連携をとりながら、そこでの検討協議も必要ではないかと思うところです。庁内検討会議といいますのは、例えば、幅広く、職員の違う部署の職員の考えとか広く知恵を借りたいと思ったときに、それが庁議なのか部長会なのかプロジェクトチームなのかわかりませんが、庁内でもそういった検討会議があれば、よりいいのかなと思っております。それと市民参画の仕方ですけれども、方針案が決まった後には、やはり住民に広くお知らせする必要もあろうかと思っております。手法はその会議でまた話をさせていただくことになると思っておりますけど、パブリックコメントであったり、地区説明会が必要ではないかと思っております。また次の検討会議のところでも、同様で、必要に応じてアンケート調査だったり、同様に住民への説明が必要ではないかというふうに考えております。簡単ですが、以上が説明となります。

案では、当検討会議がすごく長い名前で、仮称としておりますけれども、前回の教育委員会でもちょっと協議をしまして。いろんな言い方をしておりますして最初はわかりやすいだろうということで、小中学校の適正規模適正配置というふうな言い方を続

けていましたけれども、会議の名前としてはちょっと長すぎるのではないかとということで、他の自治体のあり方なども参考にして、他の自治体では再編という言葉を使っていたり再配置という言葉を使っていたり、いろいろですけれども、そろそろ名前を一つ決めて統一した言い方を進めてはどうかと思いますのでそのあたりの協議をよろしくお願いいたします。以上です。

○田中市長

説明が終わりましたが、委員の皆さんのご質疑、ご意見をお願いしたいと思います。

○原教育総務課長

一つ補足します。検討にかける期間ですけれども、他の自治体基本方針の策定で大体1年、次の基本計画で最短で2年。概ねこのようなスケジュールではどうかということをおわせて協議したいと思います。

○田中市長

ただいま説明が終わりましたが、委員の皆さんご質疑、ご意見がいただけませんか。

○加藤委員

やっと入口に差しかかったのかなというような実感がしておりますけど、本当に時間がかかることですので、まずは部局の方で計画的にスケジュールを立ててもらって、その理解を肅々と広めていくべきではないかなと思いますけど、推進会議のあり方がちょっとなんかこうまだぼやっとしているので、具体的に、こういうような会議体で、こういうふうな進め方でなんていうのが、もし参考事例があれば教えて欲しいとは思いますが。

○田中市長

何か参考事例はありますか。

○原教育総務課長

参考事例というのは用意してないのですけれども、直近で、この教育政策推進会議を設置したことが、幼稚園の今後を考えるっていう時に設置したことがあります。その時のメンバーが、識見を有するものということで、島根大学の理事であるとか、松江教育センター、幼稚園の指導講師であるとか、安来の教育支援センターの所長、交流センターの館長、主事、幼稚園教諭、自治会長、保護者ということで、連合会の会長であったり、そういう方をメンバーとして設置したことがございます。進め方ですけれども、まずいきなり集まっていただいてさあどうでしょうというのはちょっとできないと思うので、まずは安来市の今後の児童生徒の推移であるとかあるいは施設の面からこういう状況であるとか、そういった安来市の現状を伝えるところがスタートだと思っています。

○田中市長

今申し上げましたようにメンバー的なもの、また進め方についてでございますが、

これにつきましては何かご意見は。

○加藤委員

その進め方ですけど、令和3年度に入ってこういう推進会議がつくられて、我々がどういう関わりをして、どういう責任上なることができるのかなというのがちょっとまだ、また皆さんもそうでしょうけど、まず経験ないので何かこう、具体的なところがわかると、例えば、こういう話が出ると多分令和3年度から、そういう噂話があったりした時に、地区の人たちからその我々4名のメンバーに多分聞かれると思うんですね。

例えば私だったら赤江小学校なくなるのかみたいなことが言われかねないので、そういう時にはそこまではいってなくて、こういうような推進会議から検討会議に移行する今準備をしているということがスムーズに説明できないといけないと思うので。

我々がこの推進会議のところにどういう責任あるポジションに入っていけるのかなっていうのが、ここで決めるのですかね、それとも今後の教育委員会の定例会で決めていくのか。

○原教育総務課長

今考えていることは、あくまでも教育委員会として、政策推進会議を、その議題を投げかけるということなので、前段の定例の教育委員会で話を、よくよく揉んでといいますか。協議して進めていきたいと。

○加藤委員

あくまでも、定例の毎月ある協議会、定例会の中で、ある程度の種落とすというかそういったものがあって、それを具現化していきながら推進会議に投げかけていって検討を進めていく。そういうキャッチボールがあるわけですね。

○岡本委員

そのように進められた課程みたいなものは、公開するっていうところで進むっていうことでしょうかね。公開の仕方とか。

○原教育総務課長

政策推進会議の要綱に基づきますと、この推進会議の内容は公開の対象ではないと考えております。ただ、教育委員会とのキャッチボールをしていくっていうことなので、教育委員会の内容は当然公開されていると。あと、最終的に提言書をいただいた時には、やはりこれは住民説明という観点からも、これは公開しないといけないのかなあと考えております。事務局がちょっと考えることであって、そういったところも含めて政策推進会議の方で細かいところは、話をどんどん進めていけたらと思います。

○田中市長

他にご意見はありませんか。

○寺田委員

私は今回初めてですけれども、平成29年から、総合教育会議で学校配置の適正化ということが取り扱っておられたと思うのですけれども、その過程で現在まで進捗がなかったのは何故かということと、それから今回スケジュールで将来実施という言葉で謳っていることは当然、極端な話この校区は、再編していくというようなことを決定する機関だというふうに認識してよろしいでしょうか。

○田中市長

当時の考え方は、29年から、今まで何を。

○青戸教育部長

今までも教育総合会議の中では、お話しておったところですけど、具体的にどうするかというのが最終的には、結論の出るところまでいっておりませんで、なかなか概要程度のところで、これからやっということはお話していたところですけど、具体的には進んでなかったのが現状でございましてそれを、というわけにはいきませんので、今回これを立ち上げて、3年後を目指して、すべて持っていこうという考えでございまして、今までちょっと、なかなかできなかったのはどうしても今までのやり方、考え方が、先を見据えるところまでいかなかったのが現状でございまして、今回はこれをつくりますので、しっかりやっという考え方で今回させていただきます。

○田中市長

それと目標というか、落としどころをどこにするかってこともお願いします。

○原教育総務課長

今回、こういった計画を進めるということで、もちろん最終的には先ほど長寿命化の計画の中でもこれが必要だということはお話ししましたので、この3年とか4年の間に、どっかの学校がなくなるという話ではなくて、その計画をまずは立てて、将来的にそれが何年後になるかはわかりませんが、子供たちにとってよい結果が出せればいいと思っています。

○田中市長

他にご意見がございしますか。

最初に、教育推進会議ということの中では名前をどうするかという提案を事務局はしておりますけれども。皆様方がわかりやすいといいますか進みやすい名前でご提案がございましたら、今でなくてもいいですけども、そういうこともまた目標にしていきたいと思っております。

また、とても長いスパンで考えなければいけないことだと思っております、事務局の方からは、方針だけでも1年はかかるだろう、そしてまた、その上でまた計画立案は2年、最低かかりますけれども、どうしても、公共施設の管理計画とか、その長寿命化ということの中で、学校も例外ではなくて、そういうことがあるという部分を踏まえてまたいろんなご意見いただいて進めていただければというふうに思っております。

ます。そのことにつきまして何かご意見とかご質疑ございましたら。よろしいですかね。事務局の方からいいですか。この問題につきましては、特に言いそびれたこととかよろしいですか。

○寺田委員

いいですか。先ほど事務局が言われました小・中学校の適正規模適正配置検討会という、非常に長い名称、前回の教育委員会でも大分もめまして、なかなか決めかねないということで、是非とも、市長さんに一任してお願いできればというふうな案が生まれてできればお願いしたいと思います。

○田中市長

そうですね。もう、みんなとかいろいろ検討しながらですが、このままですと小中学校適正配置ってということで名前だけが先行しますと、最初に加藤委員がおっしゃいましたように、こんなことがどうかっていうことになると思いますので、ちょっと表現を変えていったらという思いはございます。

またどうしても今のままじゃいけないっていうことを感じながら、いつかスタートしませんと、検討していただく期間もありますし、それから実際にどうやっていくかという計画もありますし、まあ、それが今であるというふうに思っただけならばというふうに思っております。それでは、名前の方を職員と一緒に、いろいろ進みやすい名前を検討してまた皆様方に選んでいただければと思っておりますので、よろしくお願ひします。それでは適正配置の問題についてはこれでよろしいでしょうかね。

(2) 安来市の教育について

そういたしますと続きまして議題2の「安来市の教育について」に移りたいと思っております。

これは今のこの限られた決めた問題ではなくて、自由に意見交換をしていただきたいと思いますが、皆様方、いかがでございましょうか。

今まで思っていたことまたこれからやりたいことなどどなたからでもかまいませんけれども。

○加藤委員

すみません、なんかちょっと、空気が重いので、切り出しにくいのですが、今日定例会で、学校配置の適正化にも関連する内容を事務局の方から提示していただきまして、安来市の学校施設の長寿命化計画ということで、市長、もちろんご存知であろうと思います。これと切り離しては、適正配置のことも考えにくいので、リンクして考えていかなければいけない資料を、今日はいただきました。

その中で、毎年のように多額の維持修繕事業がかかっているということも初めて分かりまして、数年やっていたら新しい校舎建つじゃないかというような、感想を私も抱きました。そんな中で、本当にごつくばらんに話をさしてもらって、もう思いつき

でしゃべると、将来的にですけど、やっぱり物を建てるってやっぱり維持修繕っていうのは必ずついてまいりますし、いつか取り壊して、新しくするのか、やめるのかという判断を迫られるものではありません。その中で、教育委員会もたくさんの施設を抱えておりますし、小中学校だけではありませんので、そういった維持修繕費っていうのは非常に今後も、おそらく抱えている以上は膨らんでくるだろうということは、想像にやすいと思います。

そんな中で、思いつきでしゃべらせてもらおうと、これは市長さんの采配が非常にいるのだろうと思いますけども、民間の主力を使った、そういった建設ということもやっぱり視野に入れていかないといけないのかなというふうに思います。

具体的にいうと、どこかの市町村でもかかっておられたと思いますけども、建物は民間に建てていただいて、市が借り上げると、維持管理もすべて民間がやっていくと。そうすると建てる費用も、民間の力を使えば、ローコストに建てることもできるし、長寿命化っていいですか建物自体は民間の施設ですから、もうその都度その都度、適切な修繕を行って、長く施設を維持することができるというようなことを民間の力を使ったそういった計画も必要じゃないかなというふうに思います。人口が減っていきますし、もちろん、安来市の職員さんは減っていくわけですから、職員さんが減っていくのに、業務は増えていくみたいなことでは本末転倒なので、そういったようなことも今後考えていくべきではないか。教育委員会にとっては、施設をたくさん抱えているので、そういったことも視野に入れていくべきじゃないかなと思いますので、またご意見をいただければと思います。

○田中市長

大久佐部長、P F I とかそういった手法じゃなくて、民間が建設して買い上げるそういった起債はできるのか。

○大久佐部長

はい。今、おっしゃった手法は、他の自治体でやっていることもあります。

昔で言いますとP F I。民間が建設して、その償還費用と、運営費を合わせて費用分割でお支払いすると。

それから今P P Pといひまして、民間のお金を活用して、もっとやっていこうという考え方もございます。

ですが、都会の自治体ですと、交付税措置のない起債、いわゆる借入金が多いところは、なかなかそういう手法がありなのだろうと思いますが、安来市の状況ですと過疎債なりを使えますと、70%交付税算入がございまして。そうすると、通常民間に建設していただきますと市がお金を借りる必要はありませんので、純然と真水の一般財源を、毎年一定のお金、償還額も合わせてお支払いするというかたちになりますので、どちらが得かということになると、おそらく、過疎債を借りて70%国から交付税算入を得ながら、市が運営するというかたちが、おそらく、はっきりと計算したわけで



はありませんが、そういうことが考えられます。そういうことがあるので、過疎地域はなかなかそのPFI事業というのが進んでいないという現状もあろうかと思えます。

○田中市長

とにかく民間と、単価が全く違うわけですし、建設はそういう感じだったんですね。行政は起債の交付税算入がありますので、その維持管理なんか民間にしてもらっているんじゃないですか。

○大久佐部長

維持管理は例えば包括的に何年間の維持管理をこの金額でお願いしますということになると、適正な維持管理をしていただけることがありますのでそういった考え方は、あろうかと思えます。

例えば、今し尿処理場は、包括契約ということで、5年間、もうすべて運営から何からやっていただいておりますので、そういう考え方はあろうと思えますが、建設の部分ではなかなか難しい部分があります。

他の公営住宅ですと公営住宅の市がお金を借りる際には交付税算入がありません。ですのでよその小さい自治体でもう、市営住宅、公営住宅等については、そういう方法を活用している自治体もあります。

○加藤委員

もし、仮にで申し訳ないんですけど、過疎債がもし今後使えなくなった場合は見通しが立たなくなるということも可能性としてはありだと思いますけども、そんなことはないですよ。

○田中市長

ご心配においては昨年、一昨年からずっと上京して、私も議長のとときに市長と一緒にいったんですけど、いろいろ働きかけまして、本当は旧広瀬、伯太が、過疎地域、過疎債充当。旧安来市は、全く駄目だったんですが、今現在、みなし過疎ということで加えていただいております。ちょうど今年の3月時点でその期限が切れるので、それで、いろんな手だてを持って国会議員さんにも頑張ってもらって、とりあえずのところは、まだ大丈夫であらうと思えます。かといってむやみやたらに物事を進めるわけでもありませんけど。とりあえず今、大久佐部長が申しあげましたように建設については起債をしてそういった交付税措置をするのがいいということでありますので、あと、先ほど言いましたように維持管理につきましては、包括的な維持管理の方法もありますのでまた検討していただければと思っております。

その他でも何かございましたら何でもいいですけども。

○寺田委員

大体違う方面といいますか、考え方ですけど今現在コロナ禍で、昨日も自死対策協議会出さしていただいて、求人倍率が非常に少ないということで仕事がなくて若い人

が自死するという、島根県でも、一昨年から3人から5人に増えたということで、全国的にやっぱりそういったケースは増えている。

その中で、ピンチをチャンスに変えるではないですけども、東京からの首都脱出組がかなり出ている。神奈川とか近郊で非常に住民が増えているということで、それが通勤圏内だからかどうかかわからんですけども、リモートの仕事もできるっていうことがわかってきたということで、できれば、何か島根県等も非常に魅力あるところだということで、首都圏の方からでも、来たいというような方があってその窓口やなんかはどうだろうかという、インターネットなんかでも、探しておられる方が結構いる、安来市も手を挙げて先ほど、民間の力を借りて、アパートとか一戸建てのところを建てて、市が、しばらくの間は、供給して、借り上げて住んでいただく、よければ、もうずっと定住をしてもらってということになるとやっぱり、子供も増えて人口も増えてくるというようなことで、やはりそういった面でやっぱり、ピンチはピンチだけどそれをチャンスに変えるのが一番、底力があるところの行政の力ではないかっていう気がしておりますけど、そこら辺も力入れていただけましたらと思います。

#### ○田中市長

今のお話でございますが、本当に全くその通りです。言われたのはまず私もずっと言っていますけれども、確かにそういう傾向もあります、ただ言われますように居住する場所がなくて、それを今、ひっくるめて子どもが多くなるってことはその素材がいますので、そういうことも今、皆で検討してもらっております。

また、当然に、教育委員会さんにお世話になっている小中学校ですけども、高校の魅力化も同時に進めてありますので、そこで情報高校とか、安来高校ですから、情報高校は特に県外からしまね留学ということで、来られますので、そういったところになんて言いますか一緒になって小中学校の教育もそういったところに向かっていただきたいと思っております。

しまね留学の中で一番問題なのは、住むところでして、あと都会から来ていただくということになりますと、地元できちんと受けて、住むところと、あと、食べ物、また夜もきちんとならないといけませんですし、都会の親御さんが子どもさんをこっちに來させて、安心できるというやっぱり住むところと、食べ物と、後、交通機関がきちんとなっておりまして、安心できる場所だと思っておりますので、そういうことのためにもただ単に他所から高校が人を呼んでくるだけじゃなくて、やっぱり小中学校のとかそういった環境づくりしていませんといけませんということで今ちゃんと、安来市でも取り組みを始めておりまして、何とか進めようと思っておりますので、つくるうと思っております。

街中につくって、皆さんに協力していただきまして進めていきたいと思っておりますし、そこからまた卒業されて、勤め口がないといけませんので、それも同時に今いろいろ進めてもらって計画しておりますので、決して高校のことということではなく

て、小中学校からそういった機運をみんなで、調整していかないといけないなということをおもっております。

○小村委員

今コロナということで、特に学校現場は、今までにない状況で進んでいるんじゃないかと思います。我々も卒業式入学式、いつもご紹介いただいていたのですが、どうも今年度は無しのような流れのようでございます。

ただコロナによって、全員に1人1台タブレットを支給するとか、大型電子黒板が全校に配置されるような流れが急速に広まって今、大体、配置が終わったような。

○青戸教育部長

3月末で。

○小村委員

そのような状況のようですので、委員会でもちょっとたびたび話題になるんですが道具があってもそれを扱えるかどうかというそこが一番の問題ではないかと思えます。指導の講師の方を派遣していただいたり、それぞれの学校で今、ピッチ上げて、多分取り組んでおられることと思えます。

これはコロナでそれがすごく今加速して、急に今こういう状況になっているわけですが、市長さんも代わられましたし、安来の教育、今後の何かこれを目玉に何かやっけていきたいなっていうか、思いがとおりでしたらちょっと一言お聞かせ願いたいと思えます。

○田中市長

なかなか難しい問題だと思います。

私自身が高等教育を受けたわけではございませんけども、ただいまおっしゃいましたように、時代の流れがデジタル化ということで、それに即応した人間を育てないといけないということは痛切に思っております。

今、地元で教育とはまた話が違うんですけど。デジタル農業ということでもう島根県のモデル地区になりました安来市が。これはGPSを使った自動装置をつけたものが、これからどんどん発展していきます。来年度からもう実際に基地局はつくられますし、そこでやっぱり働く、とかそういったことを理解するような、教育をしていただかないといけないと思っておりますし、目指すところはやっぱり、ただデジタル化だけではなくて、人と人との繋がりを大切にさせていただくような、子供さんをたくさん育てて欲しいなとは思っております。

今、どうしてもちょっとやっぱり進学しようとするかと松江、米子まで行く傾向が、今までずっとあったのですが、どうも今年度、去年の春、成績優秀でも安来に残るこんなことたくさんあったということが、高校でありまして、やっぱりそういった、何て言いますか、安来のよさっていうのを伸ばすような方、先生方に指導をしていただきたいなということはおもっております。

どうしても安来はただ人材を小さいとき育むだけではなくて安来に残るようなそういった教育もして欲しいとは思っております。

ちょっとがった言い方ですけど、選挙の時にやっぱり人材がすべてだと思っております、武田信玄の言葉を用いていると話したりしましたけれども、やっぱり人を育てることがやっぱり、市の発展に伝わっていると思っております。

その中には教育っていうのは、私が一概には言うことができませんけども、やっぱり小学校中学校の教育ってのがやっぱり一番、私もそうですけど、残っております、上にいきますと今度は専門的になって参りますし、人間形成はやっぱり小中学校で一番だという感じ私は思っております、この地域を大切にしようといった人が育っていけば、やっぱり日本を大切にしようじゃないかという思いもありました。

確かに学力っていうのは、そうやっていろんな様々な先生方に努力していただいて、それでもって向上できるものだと思っておりますけども、人と人との繋がりを充実にするにはやっぱり、またその違った努力をしていただく必要があるかもしれませんし、その中でよく思うのは、私が住むところもあるんですが、複式がどんどん増えてきて、複式で、悪いのかっていうとそれはわかりませんが、ぱっと思ってしまうのは先生方が少なくなることですね。

総人数が非常に少なくなりまして、1学年から6学年まで申し上げますと、担任の先生、単純に6人おられるはずですけども、教頭先生と校長先生は別にして、1年だけ、3、4、5、6と複式になりますと、2名基本的に減になります。いろんな様々な施策があつていろいろ、共有配置がされるわけですけども、先生方の事務といいますか、仕事も大変でないかと察しておりますですね。

ですから、こういった学校の配置は、単に統廃合をしなければいけないということはないかもしれませんが、何かそういう思いがございまして、教育的には一生懸命やっていただいて、学力が低下したかということとそうでは無いと思っておりますけども、何かやっぱり先生の、何か少人数だと目が届きやすいのに、先生が少なくなりますと、学校本体が、非常にどうかという思いもございまして、なかなか質問に答えられてはないかと思っておりますけども、学力だけではなくて、そういった、周りはずっと国全体で出づらくなってきて人と話さないことが多くなった。

そうすると、地域を形成するのはやっぱり人と人だと思っておりますので、安来を大切に思う気持ちを持ってもらうような教育をしていただきまして、イコールその日本を大切にする、何かそういったことができないかなと思っております。

#### ○岡本委員

地域を大切にすることとは、すごく大切だなと思っております。教育大綱の中にも、ふるさと教育の推進等へ入っていたと思っておりますけども、そういうのをしっかりと進めていただければと思っておりますし、その中で、ふるさと教育っていうと、文化財というようなところも大切にしようかなと思っております、今月山の方

も最終年度に入るということがあって、記してありましたけれども、さらに皆さん、広瀬地区っていうことで、完結してしまうような感じがして、もっと他のところと結びつけたような施策というかそういうところへ進めて、広い面を持つような、子供たちがここと月山と、例えば比婆山とか。なんか、そうしたこととか、この安来の町と月山の繋がりとか、もっと何か広い視野を持てるような教育とかそういうものを進めるというような方法っていうのは、どういうふうに考えておられるんですか。

○田中市長

皆さん方言われることでありますけども、私は特になんて言いますか、鉄の道文化圏という日本遺産があったこの地域の今でもある特徴がありまして、奥出雲雲南そして安来、2市1町で文化圏をつくって日本遺産だったわけですが、そこでこの間、町歩きの方が来られまして、たたら製鉄でずっと、もちろん広瀬にあるたたら製鉄もあってありますけども、そういうものの積み出し港が安来港であると、それを支配したのが月山に、時には尼子であったり時には毛利だったりするわけですがもそういったそこを支配する、その城であったというふうな位置付けにしておられました。比田の金屋子神というのは日本全国の鉄の神社の総本山であるというふうなことっていう、新しい安来市には比田の金屋子神と月山ともう一つは和鋼博物館、それから和鋼博物館を取り巻く安来の街並み、今で言いますと西小路、中郵便局からまっすぐに海岸に行く道が、大体、当時の繁華街、メインストリートだったようでして、そこにはたくさん偉人が出た足跡があるということでガイドの方が来られて、解説受けましたけれども、そういうところも、ただ、今、月山だけじゃなくて、月山がどうかっていうことは皆さん方よくご存知になりましたし、特集を組んだりもしておりますし、きれいになったわけですが、月山がなぜ月山なのかということ、色々な観点から、私も改めて学んでおりましたですね。

それから、月山と十神山の関係とかいろんなことを学ばせていただきまして、そういう、こういった歴史といたしますか。昔からの財産を大切にするような教育もやっぱりやって欲しいなと思っております。

どうしても、忘れがちなことは、一つのここに集中したことだけ、関連付ければ清水寺もそうですし、尼子の代もまたその前後も清水寺を寄進したというのはございませし、いろんなこととつなげて発掘するようなそういった教育も必要ではないかというふうに考えております。

○岡本委員

それぞれ安来も大火があったり、広瀬も大火があったり、母里もでしょうか、それぞれのところで大火があつて資料とかがすごく少なくなっているというふうに聞きます。最近文献とかそういうものを読める人がすごく少なくなっているっていう話を聞いたり、そうした史実がないので結局広瀬で大河ドラマができないとか、そういう話もあつたりするんで、ただその文献とかを集約するとかそういうような活動とかそ

ういうのを進めていってもらえたら、なんか、そうした史実に基づいたことが、今、子供たちも、山中鹿介などについて学んでいるようだけれども、あるいは祇園さんとか、そうした文化的なところも学んでいたりするんだけれども、本当の史実っていうのが何か見えていそうで見えていないみたいなそういう印象はぬぐえないなと思っております。そうしたところを発掘するというか、資料というのをそろえるというかそういった方向で進められないのかなと思うところは最近あります。

○田中市長

青戸部長どうでしょうかその辺。

○青戸教育部長

ちょっと今すぐ出てまいりませんが、いろんな資料を、岡本委員さんの方から言われるように、集めて一つのところにいろいろなものを集めて、持っていきたいところではあるんですけど、あの中には一部でございますけど、文化財課の担当がその資料も収集しているところもあるんですけどそこら辺は、今後どの程度までやっていくかなかなか今すぐ答えることできないんですけど参考意見としまして考えていきたいと思っております。

○田中市長

他にはございませんでしょうかね。

○勝部教育長

失礼します。この安来市の教育ということなのでごく範囲が広くて、どんな話が出るのかよくわからなかったんですけど。

今の岡本委員さんの話については、文化財課で担当していますが、文化財保護委員さんにいろんなこととお話していただいています。

いろんな企画もある程度考えてはいるんですけどもどうしても予算が伴いますので、それが予算を通過しなければできないということになるろうかと思っておりますけど、ただ少しずついろんなことは考えているというのが実態であります。

古文書等も確かに読める人が少なくなったということですが、そういったことができる人に依頼をして、今、人探しをしながら、そういった作業を進めております。

それから市長さんの話にもありましたけども、基本的に私は人材育成が教育の仕事だというふうに私は思っています。安来市の学校教育の中では、特に中学校は自治、「自分たちの学校は自分たちでつくる」という考えにたって、生活して欲しいと思っております。

安心して楽しく学べる学校は、生徒自身が手をつくっていくんだというそういう気概を持って欲しいということで、多分5年ぐらい前から、生徒会サミットが開かれるようになって、現在はいじめ撲滅というスローガンの中で宣言を出して頑張っています。

そうした中、実態はいろんな困難はあるんですけども、自分たちの手で学校をつ

くるという気概が育ってきているというふうに思っていますし、小学校でも高学年ぐらいになりますと生徒会の執行部みたいなものはないんですけれども、校区の中で少しずつ浸透していつてくれているんじゃないかというふうに思っております。

安来市の人口減で、定住対策でいろんなことが考えられるんですけれども、魅力のある町を自分たち市民でつくるんだという気概が、市民の中で育っていかなければ、外から来た人にも魅力は感じないだろうというふうに思います。そういう意味では、安来市にも文化財と、観光資源がいっぱいあります。

こうしたところをいかに市民が大事にできるのかってということが、大切なのかなと。たくさんイベントがありますので、限られたものしか参加できないんですけれども。

私が考えていたことは、例えば足立美術館が日本でも有名になりましたけれども、必ず学校教育の研修講師がこられたときには、研修講師の先生と一緒に連れだって、足立美術館に行きます。年に数回、そういうことをしてきました。

あるいは、加納美術館も紹介をして合わせてそちらに出向くとか。月山富田城も大変有名になってきましたから、ぜひあそこに行きたいんだという方もありました。比較的近い距離になりますので、広瀬の中では、そういう地道な活動ですけれども、一緒に行って案内をするっていうようなことは必要なかなと思います。

市民の皆さんの中でも、時間があれば地元のそうした美術館だったり、清水寺だったり、月山富田城だったり、あるいは平和の集いであったりとか、それから灯参道とか、そういったところに極力足を運べばいいのかなというふうに思っております。

そして、ふるさとを大切に考える人が少しずつ増えていけば、外から来た人もああいい町だなと感じると思います。地元を地元の人が大事にするまちをつくるっていうことが、定住だったり外から人を招き入れる、一番大切な部分じゃないかなと私は思っています。若い人が来てくれればいいと思うんですけれども。

昨日、アルテピアで情報科学高校の3年生の高校魅力化コンソーシアムの課題研究発表会がありました。

いろんな研究部ループに分かれて発表したんですけど最後に、安来の出身の3年生2人が、地元の活性化ということについてプレゼンをしました。

2人とも島根県立大学に合格されたということで、その時にされたプレゼンだったんですけれども、地元を大切に考えて、とにかく自分がここに残って地元を活性化させるんだっていう生徒と、あとは関係人口をどんなふうにして増やそうかという発表でした。要するに、市民以外、どうしたら人口が増えるのだろうかっていうことを一生懸命考え、発表ができるっていうのは、すごいなっていうのを感じました。

自分が高校生の時のことを思ったらとてもそんな発表はできなかつただろうなと思うんです。

地道な活動ですけれども、少しずつやっぱりでもそういうところで、心温まることがちょこちょこ見られるようになったなというふうに思います。

今近道はないですけど、一つ一つ、そうしたことが積み重なっていけばいいなと思っています。

○青戸教育部長

ちょっと先ほどすぐ出てこなかったんですけど、ちょっとさっき市長の方からも言われましたけど、安来の鉄の積み出し港の安来調査研究ということで今やっております、来年、また予算、今これから予算審議していただくんですけど、それに基づきまして、総括として考えておりまして調査研究の報告書を策定して、これから郷土の学習についても活用していこうと考えておりますので、そこら辺を、また、できた折りには皆さんも提示していきたいと思っておるところでございます。以上でございます。

○寺田委員

私、本業は農業でして、よく言われるのは、いいものを作るけど、売ることが下手だと。安来市もいいものがいっぱいあります。

それこそ先ほど、ずらずらっと並べた月山から始まって、いろんなところありますけどやっぱり情報発信をしているかというやっぱりちょっと、何か物足りないといひますか全国にあんまり広まってないな。ましてや東京の人が、鳥取と島根とどう違うんだとかどっちがどっちなんだかというよく聞かれます。

そういった面で、先ほど市長さんも言われたように、デジタル化それからICTの教育がどんどん進んでいく中で、モデル校みたいなものが、つくってやっていただけたら例えば、先ほども委員会の中で専任、教育担当のものがなくなってくるということで、各学校に置くと大変な数になってしまうと思うんですけどそこら辺で、黒板デジタル化にして、よそからの学校の先生が、二つ三つの学校に配信して一緒に授業を受ける。

そうすると、生徒も映るし先生も映って、1学級5人か6人しかいない学級が例えば、3倍増えると15人、20人になって、何かみんな授業を受けているような気になる。非常に効率もいいし、そういったことを、全国的にその手を挙げて、モデル校並みにしていただいて、やっていただければ。島根はこういうことを安来はしているんだと、それでちょっとうちの子も入れてみようか行ってみようかというようなことも始まるんじゃないかということで、ぜひとも、そういった面が、もし機会があればトップセールスじゃないですけども市長さんに、お願いして、いろんな事業を引き受けて、安来、島根県にこんな教育に力を入れてきているところがあるということ、日本全国にお知らせしていただけたらと思います。

○田中市長

今教育長の方からいろいろ、この問題について、安来の教育について、またいろいろご質問いただいて、またまとめてもらって、また寺田委員からもいろいろご指摘いただきました。本当に皆さん方にはお願いしたいということでございます。よく、い



いろいろご指導いただきたいと思います。

私ごとですが、議長職を6年前からさせていただいておりまして、毎年市長と議長の成人式で挨拶がございます。

そこで毎回言うておりましたことが、最初の頃思っていたのは、親の方が子どもに安来は何もないから、どっかにね、すぐに出て行けとか言うておったというふうに思っております。私自身もそういうことは周囲でありました。

しかしそれじゃいけないわけですし、安来のこと必ず大好きになってくださいってことずっと言うていました。どじょっこテレビで去年か一昨年だったか話をしたときに、山陰マーブルの社長、今は専務ですけどね。安来を好きになってもらえるようなそういう番組をつくってもらえないかということで、今、「安来が好き」が始まりまして。あれは1回ずつずっと言うていますと、だんだんと安来を大切にしようという気持ちが芽生えるんじゃないかということで共同でといたしますか提案してつくっていただいたことがありまして。そういうふうにしては地道なことをやっていながら教育的にそういうふうに教育長が言われましたように、調整していただきたいと思っております。

あと情報発信ですけど、今、職員と一緒に考えていますと情報発信ビデオを、今、制作しようと思っております。

私も先ほど申し上げましたように何年か前から、職が議員としてでしたけれど、東京に、毎年2、3回行きまして、U・Iターン募集しております。

なかなか言葉で言うてもわかりません。資料持ってきてもなかなか理解しておりません。関西圏だと安来節で分かりますけど、関東圏では安来節で分かりませんので、ドジョウすくい分かりますけど。

だから、そういうことでなかなか安来のことわかっていただけませんので、今度ビデオで、ビデオといいますか宣伝のものをつくる計画をしています。それを発信いたします。

また私の名刺を、単なる名刺じゃなくて、きちんと、お金はかかりますけどちょっと、宣伝媒体を入った名刺を、今、制作依頼しておりますので、そういうものをしながらそれこそどこ行っても私は安来の者ですってことがわかるような、そういうことをやっていこうと思っております。

次のテーマでいうと魅力化があるんですが、今度島根県が海士町のしまね留学ということでずっと小中学校とか広告しているんですが、それを、やった人が、岩本さんって人です。その方が今度うちにこられますので、いろんなことの指導を受けて、できることは取り組んでいきたいと思っております。他県から安来へ向かって来ていただけるような学校になっていただきたいという思いであります。

今後ともよろしくお願ひしたいと思っております。

(3) その他

○田中市長

そういたしますと、続きまして3番目のその他ですが、何かございましたら。

○金山総務課長

それでは事務局の方から、次回につきましてですけれども、来年度、また教育の適正化等の協議の状況を見ながら、調整をさせていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

また、その中で協議したい事項等がありましたら、この事務局の総務課、あるいは、教育委員会の教育総務課の方にお寄せいただきたいと思います。

また、今この場で、そういったものがありましたら、伺えればと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○田中市長

来年度の、今募集も示しましたけれども、この際ですが、今、協議していただくことがあったり、来年の計画の中で提案したいことがございましたらお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。また来年はそういうふうに計画いたしますのでよろしくお願いいたします。もしございましたら、この後でも結構ですので総務課か教育総務課に、いろんなご意見をお寄せいただければというふうに思っています。

それでは、予定しておりました本日の議題につきましては、すべて協議をいたしました。

これからもこの会議の中で議論をさせていただいて、市長部局と教育委員会が連携することによりまして、総合的に教育行政を推進し、豊かな未来を築く担い手を育てていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。それでは以上をもちまして、本日は閉会といたします。どうもお世話になりました。ありがとうございました。